

ミュージアム・コンサート

工藤重典(フルート) & 鈴木大介(ギター)

曲目解説

M.ジュリアーニ:大ソナタ イ長調

イタリアのギター奏者マウロ・ジュリアーニは 19 世紀初頭のウィーンでヴィルトゥオーソとして活躍し、150 曲以上のギター作品を作曲した。本曲は、1817 年頃に書かれたフルート(あるいはヴァイオリン)とギターのための作品。4 楽章からなり、古典派の明朗な響きと洗練された技法を感じさせる名作となっている。

J.コズマ(武満 徹編):失われた恋

荘村清志の LP 録音のために書かれたギター編曲の作品集《ギターのための十二の歌》(1977)所収。原曲の作曲者ジョセフ・コズマは、シャンソンのスタンダード・ナンバー《枯葉》の作曲者としても有名。本曲はマルセル・カルネ監督の映画『愛人ジュリエット』(1951)からの作品。

武満 徹(鈴木大介編):映画『他人の顔』より「ワルツ」

安部公房の原作、勅使河原宏の監督で 1966 年に公開された映画『他人の顔』の劇中曲として作曲。官能的な旋律が耳に残る曲で、映画の中では前田美波里がドイツ語で歌唱するシーンがある。本日は鈴木大介のギター編曲でお届けする。

武満 徹:エア

1995 年、武満の友人でもあったフルート奏者オーレル・ニコレの 70 歳の記念コンサートのために作曲されたフルート独奏曲。初演は翌 96 年 1 月だが、その一カ月後に武満は死去し、未完の作品を除けば、これが最後の作品となった。タイトルの「エア」は、「空気」と同時に「歌」を表しているという。

ドビュッシー:パンの笛

1913 年に作曲されたフルート独奏曲。20 世紀初頭に活躍したフランスの名フルート奏者ルイ・フルーリーに献呈された。フルーリーは同時代の作曲家に作品を委嘱するなど、フルート界に貢献した。原題の「Syrinx: シランクス」とは、パン(牧神)に追われて葦に姿を変えた美しいニンフの名で、パンはその葦で笛を作ったという神話に因む。

モーツァルト(斉藤達也／福田進一／工藤重典編):ピアノ・ソナタ イ長調 K.331 《トルコ行進曲付き》

ピアノ・ソナタ第 11 番 K.331 の作曲年代は不明だが、1783 年頃にウィーンで作曲されたとも言われる。3 楽章からなっており、特に第 3 楽章のトルコ風ロンドは、モーツァルトの「トルコ行進曲」として親しまれている。

ピアソラ(鈴木大介編):《ブエノスアイレスの四季》より「春」

タンゴにクラシックやジャズなどの要素を取り入れ、独自の境地を切り拓いたアストル・ピアソラの作品は、ジャンルや国境を越えて今も愛され続けている。《ブエノスアイレスの四季》は、まず独立した作品として「夏」が 1965 年に作曲され、その 4 年後に「秋」、「冬」、「春」が書かれた。

A.ディアベリ:セレナーデ

ウィーンの作曲家で出版業も営んでいたアントン・ディアベリは、ベートーヴェン作曲の《ディアベリ変奏曲》によってその名が知られている。作曲家としては、ピアノからオペレッタまで幅広いジャンルにわたる作品を残したが、実はギター関連作品が意外に多い。本曲はフルートとギターのために書かれたセレナーデ。3 楽章からなり、華麗な技巧に彩られたセンチメンタルな旋律が聴きどころ。最後は行進曲のリズムで元気よく終わる。